

子どもたちの未来をはぐくむ学び舎を創る

八百津町小中学校統合に向けた専門家会議
【外部学識経験者による提言】について
＝概要説明編＝

令和6年3月21日

専門家会議 学識経験者

専門家会議って何？

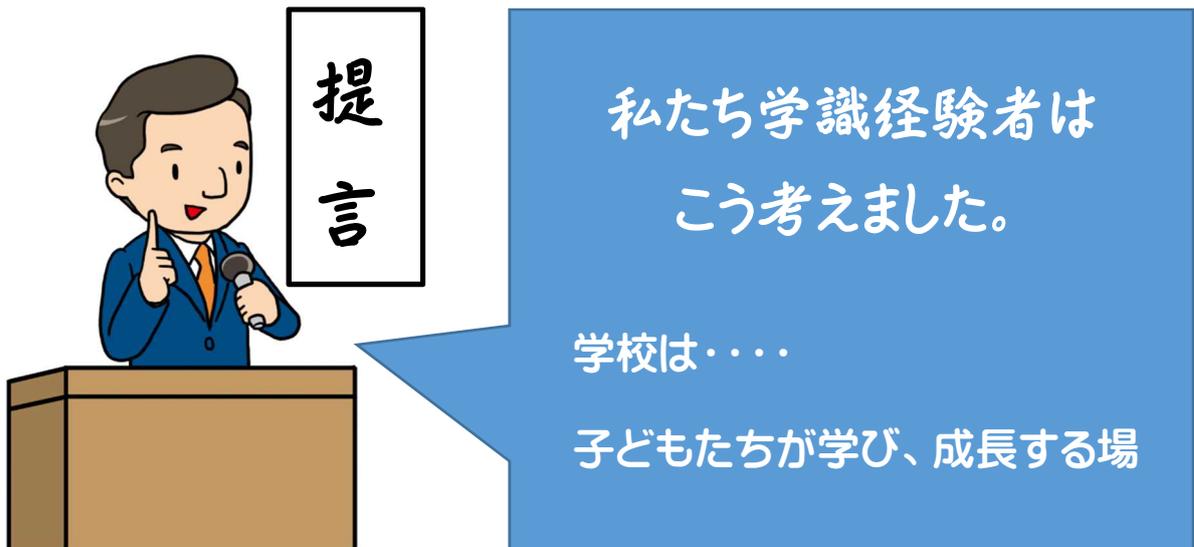
専門家会議（「八百津町小中学校統合に向けた専門家会議」以下「専門家会議」）は、子どもたちの未来を育む学校について、学識経験者の方から教育委員会に対して助言をいただくための会議です。学識経験者は大学教授や他自治体で学校統合を経験した元管理職など、男女2名ずつの計4名です。客観的な意見をいただくために、あえて町外の方をお願いしました。令和5年度中に4回の会議を開き、最終的に、八百津町教育委員会に対して、提言書（提案）を提出いただきました。



在り方検討委員会との違いは？

在り方検討委員会（「八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会」以下「在り方検討委員会」）は、条例に基づく会議です。令和3年度に、5回の会議を開き、最終的に八百津町教育委員会に「答申書」を提出しています。保小中の保護者、各地域代表者、学識経験者の総勢25名がメンバーでした。答申には、「将来的に1小学校1中学校への統合」が記されています。専門家会議は、この答申を受け、今後の方向性について提言をまとめたということです。

以下は、外部学識経験者が、八百津町教育委員会に対して提出した提言をまとめたものです。



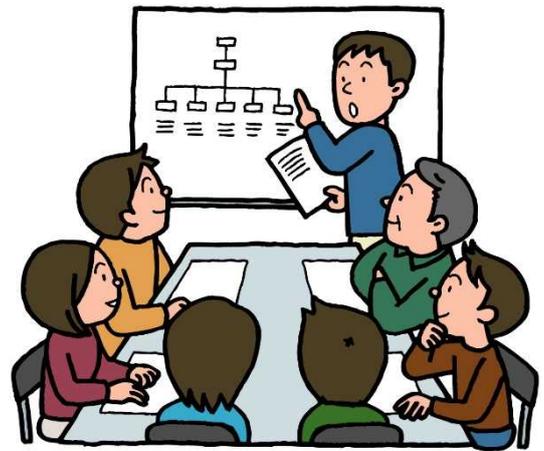
外部学識経験者の想いやスタンス 話し合いの経緯

① 外部有識者としての想いとスタンスについて

- ・学識経験者として八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会の答申にこめられた、学校に対する地域の想いの重みを受け止め、尊重しました。
- ・町外部の学識経験者という、地域に利害が無い者としての役割に立ち、客観性が担保された議論に徹しました。

② 専門家会議の経緯

- ・八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会の答申を受け、統合のメリットやデメリットを改めて整理しました。また、子どもたちが学ぶ環境について、八百津町の実態、地域と学校の協働、未来をふまえた教育の在り方、全国や県内の先進事例等をもとに、話し合いました。
- ・町執行部からは、総務、建設、財政の管理職、町内保育園学校からは、保育園代表園長、町内小中学校代表校長の参加があり、適宜現場サイドの貴重な意見をいただきました。
- ・教育委員会事務局からは、児童生徒数の動向、ハザードマップ、通学距離や時間、先進地域の視察報告等の、様々な情報の提供を受けました
- ・県内の事例として山口市や岐阜大学教育学部附属小中学校（義務教育学校）の例があげられ、八百津町の実態との違いや目指すべき方向性について意見交換をしました。
- ・能登半島でおきた大きな災害からは、学校の安心・安全を考える上での様々な気づきを得ました。
- ・最終的には「学校は子どもたちが学び成長する場である」という学校の役割に方向性が集約されました。



学校をめぐる課題

専門家会議では、以下のような学校をめぐる課題について、話し合いました。

1. 児童数の減少

右表のように、町内の小学校入学者数は、減少していきます。令和5年度現在、町内小学校で、複式学級（複数学年を一つとする学級）は、久田見小学校だけですが、将来的には、他の学校も複式学級になることが予想されます。

少人数はメリットもありますが、文部科学省は、社会性の育成や学び合いの視点などから課題を指摘しています。少子化が、子どもたちの学びにどのような影響があるのか、県内や全国の事例をもとに話し合いました。

校区	年度	R5入 H28生	R6入 H29生	R7入 H30生	R8入 H31生	R9入 R2生	R10入 R3生	R11入 R4生	R12入 R5生
八百津小		18	18	12	10	9	6	10	5
和知小		31	22	16	22	24	15	19	12
錦津小		19	11	15	8	7	10	8	4
久田見小		6	6	7	4	4	3	3	2
合計		74	57	50	44	44	34	40	23

町内児童数（小学校1年生）の推移

2. 施設の老朽化

在り方検討委員会の資料に、学校施設の状況（築年数）が示されています。

八百津小学校校舎	1958年（昭和33年）建築	築65年	（令和5年度現在 以下同じ）
和知小学校校舎	1962年（昭和37年）建築	築61年	
錦津小学校校舎	1964年（昭和39年）建築	築59年	

校舎以外にも、体育館やプールなどの周辺施設の築年数も着目する必要がありますが、これらの中には、比較的新しいものもあり、建て替えの可否について検討が必要です。全ての施設を建替える場合の財政的負担は、現在の子どもたちやそれ以降の世代にのしかかります。財政面での配慮も必要との認識を確認しました。

3. ハザードマップ等による状況（安心・安全な立地）

町内のハザードマップや、国が示している地震発生予想等の資料をもとに、現在の学校の立地について、安心・安全の観点から確認しました。また、非常時の引き渡しやスクールバスのルートなど、有事の際の対応についても想定し、立地による影響を話し合いました。能登半島地震による、校舎やその立地場所、校舎へのアクセスに係る被害状況からは、立地に関する考え方に大きな示唆を与えられました。

4. 視察報告 他自治体の事例等

事務局からの視察報告、学識経験者からは、他自治体の事例等が出され、八百津町の実態と比較しながら考え、会議の深化に役立ちました。



未来を生きる子どもたちのために、こんな学校を提案します

今後生まれてくる子供たちは 22 世紀を生きていくでしょう。学校には、未来を見越したアップデートが必要です。キーワードはズバリ、「未来」です。

私たち外部学識経験者は、学校の目指すべき方向性を次のように考えました。

学校の目指すべき方向性

- ・ 仲間同士で磨き合える環境
- ・ 多様な児童生徒の特性が大切にされる環境
- ・ 未来を切り拓くための生きる力を育む環境
- ・ 安心安全な環境



仲間同士で磨き合える環境

- ・ たくさんの仲間の個性や多様な考えに触れ、人の気持ちが分かったり、自分の想いや意見を語ったりできる子に！

コミュニケーション能力
非認知能力
学力

一人一人の特性を大切に

- ・ どの子も大切にされ、どの子も輝ける、心と体の居場所がある学校に！

不登校や発達障がい、ギフテッドなどへの対応

未来をたくましく生きる力

- ・ 加速する未来に対応できるよう、新しい校舎では、新しい学びの充実！

DX のさらなる推進
周辺施設との連携

安心・安全な環境

- ・ 能登半島地震の教訓を生かし、子どもたちを守る環境を整備！

有事を想定した施設整備
の充実

新しい学校に求められる条件とは！

未来や八百津町の実態を踏まえて考えると、新しい学校には、以下の 6 つの条件とそれぞれの視点をもとに構想することが望ましいと考えました。

① 児童生徒数の適正規模化

【求められる視点】

- ・学級：適正と言われる規模
→仲間同士で練り合える環境への整備
- ・学年：小中ともにクラス替えが可能な規模
→不登校など集団への不応への対策

② 児童生徒の多様な特性や情緒面の効果を配慮した整備

【求められる視点】

- ・ギフテッドや発達障がい等の個々の特性への対応の充実、SDGs に係る環境教育の推進、児童生徒の情緒面の効果促進をめざした環境整備

③ 安心・安全の保障

【求められる視点】

- ・老朽化による事故の回避はもとより、自然災害時の立地的なハザードの回避、及び避難場所の確保、引き渡しの利便性の確保
- ・校区拡大による通学バスの運用は必須のため、より安全なバスルートの選定・確保
- ・支援を要する個別の児童生徒に対応できる環境への配慮
- ・有事を想定した学校施設設備の機能の充実に係る検討

④ 通学等の利便性確保

【求められる視点】

- ・通学バスが増えることを踏まえ、全町どこの地域からも送迎距離（＝通学時間）に差異が著しく生じない立地の選定

⑤ 将来的な小中一貫教育への見通し

【求められる視点】

- ・将来的な児童生徒数の動向を踏まえ、さらなる児童生徒数減少の中でも生きる力の育成を担保できる教育環境の整備（小中一貫教育の推進）

⑥ 行財政の効率化

【求められる視点】

- ・建設に伴う費用（新施設の建設経費、通学バスに係る経費、用地買収に係る経費など）の増大の回避。そのため、使用可能な現存施設の活用や町有地の利用等、児童生徒数の動向を見越した計画等への配慮

町民、関係者のみなさんへ

- ・今後、町民から意見聴取等が行われると思いますが、事務局は、丁寧な説明と聴取を心掛けていただきたいと思います。
- ・町民の皆様には、ぜひ、**「学校の主役は子どもたちである」**ことを理解していただき、子どもたちの現在と未来を中心に置いた議論を期待したいと強くお願いしたいと思います。それは、地域のシンボルである学校は、子どもたちの成長なくしては、学校としての役割を果しえないと考えるからです。
- ・地域の皆様には、統合後もこれまでと同様、新しい学校の支えとなって協力をいただけるよう、お願いします。
- ・学校は、これまで以上に地域の方々が学校に関わっていただける環境づくりに尽力いただきたいと思います。
- ・今後、学校の在り方について議論される際は、**ぜひ、「在り方検討委員会の答申」と、「専門家会議学識経験者の提言」をお読みください。**
- ・最後に、人道の町に、町民のあたたかい想いがつまった日本一の学校が創造されることを祈念し、専門家会議学識経験者としての提言といたします。

八百津町小中学校統合に向けた専門家会議 学識経験者



八百津町小中学校統合に向けた専門家会議 学識経験者 名簿 令和6年3月

	氏名	役職	備考
委員長	古賀 英一	岐阜大学特任教授	
	武藤 裕二	前郡上市教育委員会課長（現郡上市立白鳥中学校長）	
	竹内久美子	元県、美濃加茂市指導主事（現組合立双葉中学校長）	
	元田 美穂	可茂県事務所 社会教育担当課長補佐	

八百津町小中学校統合に向けた専門家会議 開催状況

	開催日	主な内容
第1回	令和5年6月 9日	<ul style="list-style-type: none"> ・本会議やこれまでの経緯について ・八百津町小中学校今後の在り方検討委員会答申について ・論点整理、今後の方向性
第2回	8月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校位置、土砂災害警戒区域等について ・学校間の移動にかかる所要時間について ・今後の児童生徒数について ・山県市方式について ・学識経験者からの情報提供（小中一貫校について）
視察	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・北方町立南学園 ・岐阜市立長良小学校
視察	12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市立瑞浪北中学校
第3回	令和6年2月 8日	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数や不登校の現状について ・視察報告 ・能登半島地震を受けて
第4回	3月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・外部学識経験者の提言について

在り方検討委員会答申



専門家会議提言

